

ごみの減量・再資源化に関する市民説明会 概要
【農村環境改善センター】

1 開催概要

開催日時		令和 8 年 6 月 29 日(月) 19:00～20:10
開催場所		農村環境改善センター 第3会議室
出席者	市民	9名
	行政(市職員)	環境部長、 ごみ減量企画室3名、廃棄物対策課2名、 資源循環型施設建設関連事業課1名

2 主な質疑応答

No	項目	質問・意見等	回答
1	その他	広報紙が毎月全戸配布されるが、市がごみを配布しているようなもの。ホームページで閲覧できるため、基本的にホームページで閲覧とし、どうしても紙で欲しい方には紙で配布するというのはいかがか。	ホームページにも掲載されているが、スマートフォンやパソコンなど閲覧する機器を持っていない方もおり、紙が不要な方・必要な方の把握や判断も難しいため、当面は難しいと思われる。自治会への配布文書も含め、できる限りまとめて少なくする努力はしていきたい。 なお、広報紙も紙資源であるため、ごみにならないよう分別にご協力をお願いしたい。 (広報紙は紙で欲しいという参加者意見もあり)
2	その他	トイレットペーパーの芯を雑がみへの説明があったが、分別・リサイクルの啓発をするのではなく、芯がないトイレットペーパーの使用を義務付ける条例などを定めて、発生抑制をする方がいいのではないか。	コアレスのトイレットペーパーはなかなか普及しない実情もあるが、発生抑制が優先順位としては高いため、ご意見として参考にさせていただく。

3	資源循環型施設	新施設の処理能力が現在の3クリーンセンター合計の半分以下ということで、危機的状況にあると思われるが、ごみの減量についてもっと真剣に根本的な変革を考えていくべきではないか。	人口減少予測も踏まえ、国の計算式に沿って算出したものである。現在のクリーンセンターが建てられた約40年前はごみ量も多く、かなり余裕のある設計となっている。現在は皆様の御協力もあり着実にごみの減量は進んでいる。126t/日の処理能力は、現時点でのごみの排出量を処理できる能力となっている。ただし、施設周辺の環境負荷低減や新施設の高寿命化のためにも、引き続きごみの減量の取組をお願いしたい。
4	ごみ減量化機器購入費補助金	ごみ減量化機器補助金が年度途中で申請受付終了となると説明があったが、予算はどの程度あるのか。需要が多いのであれば補正を組む、予算増額なども検討してほしい。	令和8年度の予算額は1100万円で、年間300件程度の申請を受けている。申請件数の推移等も見ながら予算規模については検討していきたい。
5	資源循環型施設	プラスチックでも焼却できる施設など色々な施設の種類のところがあると思うが、上田市が資源循環型施設を計画している方式に決めた理由は何か。	現在のクリーンセンターで採用しており、新施設でも採用予定であるストーカ炉方式は800℃で、可燃性のごみのみを処理するものである。ガス化溶融炉は1200℃で灰を溶かす点が特徴であるが、その高い温度を維持しなければいけないがゆえに維持管理が難しく、多くの燃料が必要となり維持管理コストもかかる。溶融化したものの出口がなく結局埋め立てとなるケースも多いというデメリットもある。ガス化溶融炉も一時に比べ少なくなっているのが現状であり、より安定した信頼のできる方式を採用することとした。

6	排出方法 (不燃ごみ)	不要となった電子レンジ（約25kg）は市で処理してもらいたいと家電量販店で聞いたが、どのように出せばいいのか。	電子レンジは燃やせないごみとなるため、燃やせないごみ指定袋（赤色）に入れば袋に入れて集積所に出してもらえばいいが、10kg 以内という重さの要件もあるため、25kg であれば民間処理業者へ処理を依頼してほしい。
7	周知・啓発	説明会の参加者が少ないと感じる。おそらく来ているのは元々関心が高い方が多く、関心が低い方々にもきてもらえるような情報発信・機会づくりをしてほしい。	市でも、市民の皆様に周知する方法を苦慮している状況であるが、今回 16 会場での市民説明会を開催し、意見なども参考に多くの方に知ってもらえるよう考えていきたい。現在も、希望があれば自治会単位等での説明会も実施している。
8	資源回収	段ボール等の資源物はスーパー等の回収所に持っていくとポイントがつくところもある。市でも回収所への持ち込みによりポイントやサービスがつくなどインセンティブを付与するのはいいかがか。	自治会で行われている資源回収でお出しただけで、自治会費資源物回収促進交付金として(紙類・布類は 3 円/kg)自治会に還元されるので、ご利用いただきたい。

9	ぱっくん	ぱっくんを実践しているが、周りを見ても使っている人がほとんどいないので、もっと多くの人に取り組んでもらえるよう周知してほしい。	現在ぱっくンを配布しているエコハウスでの周知のほか、広報紙・ホームページへの掲載、環境フェア・消費生活展などイベントへ出展するなどして周知しているが、利用者は少ない。長野大学でぱっくんの活動をしている団体もあり、協力して若い世代に情報が行き届くような周知も検討したい。また、平日・日中にエコハウスでしかもらえないため不便という意見もあり、受け取りやすい場所・時間等も検討していきたい。
10	指定ごみ袋	指定ごみ袋がどこに行っても買えない状況になっており、暫定措置として市販のビニール袋でもごみ出しが可能となったが、いつまでを想定しているのか。	6/15～7/15の予定となっているが、その時の状況次第で期間延長も検討する。